（別紙1）　　平成　26　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0770401651		
法人名	株式会社　愛心会		
事業所名	ほっとファミリーぞうの目2		
所在地	〒970-0101福島県いわき市平下神谷字後原47－1		
自己評価作成日	平成26年　9月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232　福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成26年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中、笑顔の絶えない日常を意識し取り組んでいます。また季節感を常に取り入れ玄関先やホール内の飾りつけや旬の食材・行事食などを提供し、懐かしさを感じつつも普段の生活にちょっとした変化を与え、利用者の五感に良い刺激になればと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

家庭的な雰囲気の中で、利用者・職員が共に明るく楽しく過ごす事が大事と思っており、家族の安心に繋がり、笑顔で生活できる環境作りに努めている。
ラジオ体操・リハビリ訓練・指先運動により、脳の活性化や体力の維持増進に繋げている。
管理者は職員の体調や状況を考慮した働きやすい職場作りに努め、信頼関係を築いている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念に基づいた実践を行っている。朝の申し送り等に具体的な考え・行動を話している。	管理者と職員が考案した理念を玄関先に掲示し、職員一人ひとりが意識しながら、ケアサービスに努めている。状況に合わせて、理念内容の変更や追加も行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への参加をしている。地域のお祭りなどに参加し地域の中に溶け込むようにしている。また、買い物等はできるだけ地域の店舗を利用し地域で暮らす住民として考えている。	地域の清掃日には一住民として参加している。都合で参加出来ない時は事業所独自で地域の清掃をおこなっている。事業所周辺は店舗が多く、それらの活用を通して地域の交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年も恒例行事として介護フェアーを開催する予定であり、フリーマーケットや模擬店など地域の皆様とふれ合うことができる機会と考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で客観的に意見を頂くことで利用者の支援・サービスの向上につなげている。定期的に2カ月に1回の開催をしている。	会議では相談事や活動状況を報告し、提案・助言を頂きサービスの改善や向上に努めている。利用者の不穏による問題行動時の対処方法を提案し、各委員から様々な意見を頂き、家族と相談しながら受診・服薬治療に繋げ落ち着いた生活ができている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば、市の担当窓口に相談している。	何かあれば、法人全体で解決に向けて意見を出し合いその結果を市に報告し、有意義な指導が得られるよう図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを基本に全ての職員が意識し日々の業務に取り組んでいる。玄関先に出られても対応可能なように人感センサーを設置するなど工夫している。	利用者の言動は否定せず、危険のない限りは自由に過ごすことができるよう見守っている。職員は声かけや対応に配慮しながら利用者に寄り添うケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事例集などを参照し、全ての職員が事業所内で行わない為の注意を払っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は権利擁護を学ぶ機会を確保し、外部での勉強会があれば職員の誰かが参加し、その後ミーティングなどを利用して他職員に伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行い、生活面・金銭面の不安や疑問点についても解消できるよう利用者及び家族と納得できるまで話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の苦情・不満は「要望」「希望」として受け止め業務に反映している。家族の意見も運営推進会議や面会時を利用し聞き取り反映している。	日々の関わりの中で、利用者の思いを把握している。買い物や外食の要望が多く、個別対応も含め可能な限り柔軟に対応している。家族からは、受診時や面会時に話を伺っている。運営推進会議には家族も出席して頂いており、それらの意見も運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月ミーティングを行い職員の意見を聞く機会を確保している。またそれ以外でも直接意見を聴きその都度対応・反映している。	管理者は月例朝礼で職員の意見を聞く機会を設けており、業務上改善すべき事は即実践している。利用者の安全を考慮し、一時的だが勤務時間体制の調整を行いサービスの質や向上に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個別面談を行うことによって直接、現場の声を聴いている。また毎月、各部署の議事録から検討題材を抽出し、その都度対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能なかぎり内外の研修に参加できるよう管理者が常に情報収集している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、職員に定期的研修や勉強会の参加を促し、地域の同業者との接点や交流の機会を確保しながら認知症高齢者介護のサービスの確保に取り組んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面談等でじっくりと本人の意向並びに家族の心配など時間をかけて傾聴し、1度でだめなら2度3度と諦めず信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係は報・連・相を密にし、時間をかけてじっくりと結んでいくよう努めている。全職員が同じレベルで御家族と接することを目標にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応がとても重要であり、良い点・問題点を職員全員でカンファレンスし、早い段階で改善すべき点は修正し、サービスへつなげる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症になっても残された機能はたくさんある。知恵や経験を活かした生活は職員にとっても学びとなり、毎日新たな発見を楽しみ寄り添う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流の機会として毎月の定期受診や誕生会を利用し、共に御本人様を支える関係づくりを築いている。また、折にふれ、家族に呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の行きたいところ、馴染みの場所に行けるよう、家族には協力を呼びかけ、また体力的に難しい場合は写真を用意するなどで支援している。	家族の協力を得て、理美容室や思い出の場所に出かけ、楽しい時間を過ごす事ができるよう支援し、馴染みの関係が継続できるよう最善を尽くしている。外出困難な利用者には訪問理美容を依頼し、新しい関係作りに努めている。、	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時には職員がそばにおり、利用者同士が自然に会話を持てるようにしている。また、食事作りではお互いに協力できるようにできる方同士や仲の良い利用者同士を誘い合うように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し、他事業所等へ移動してもあらゆる側面から相談・支援できるよう退所時に家族としっかり話し合いをしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方一人ひとりがどのような暮らしをしたいのか、どのような思いをしているのかをお茶や食事時にさりげなく意向を確認している。その時々の気持ちを確認しながら利用者本位の暮らしができるように取り組んでいる。	利用者の会話や行動の中で、希望や意向をくみ取り、その人らしい生活が送れるよう支援している。帰宅願望時は家族に連絡し、お墓参り等の外出の機会が持てるようお願いしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方の全てが分かるわけではないが、日常会話の中から生活歴や食事の取り方、洋服の好み、仕事、環境などからも把握に努めている。家族から情報を得る事も行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が担当の利用者を持ち、状態の把握に努めている。また、生活のリズムや、ADL、認知症の進行など、様々な視点から捉え総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、関係者(医療機関を含む)とは本人がよりよく生活していくための課題を家族等を含めて話し合いを持っている。職員も利用者のカンファレンスを担当を持ちモニタリングにつなげている。	日々の利用者の変化や状況を確認し、家族・主治医・職員で意見を出し合い、それぞれの意向を取り入れながら、介護計画の作成に努めている。職員は利用者一人ひとりを担当しており，気づきの発見を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有するために必要な事、気づきをテーマにした記録をし、それを基に介護計画の見直しをスムーズに行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の事業所が隣接しているため、ひとりひとりの利用者にあったサービス体制を長期にわたり確保できる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの理美容店の協力のもと利用者お一人でも安心して散髪ができ、終わった後もお茶を飲みながら世間話をすることができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が信頼できるかかりつけ医に受診できるよう支援している。また、職員に看護師がおり、本人の状態等を家族に話したり、医師に伝えたりして適切な医療が受けられるようにしている。	利用前からのかかりつけ医の受診は家族対応でお願いしている。他に協力医の往診を定期的に受けており、結果は随時家族に報告し、職員と共有している。小さな変化も見逃さず適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に正看護師がいる為、それぞれの利用者のかかりつけ医との連携もうまくとれ医療面に関して統一が図られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医・協力病院・ホーム内看護師の連携によりスムーズに入院・退院がすすめられるよう支援する		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族には入所時点から同法人内に有料老人ホームが隣設している為、当ホームでの受け入れが困難になっても法人全体で支援していける事を説明している。	重度化や終末期には、家族の意向を確認し、その都度相談しながら家族の希望に添えるよう努めている。状態に合わせ、法人関連施設や協力病院への選択ができるよう常に連携をとっている。希望があれば看取りを行う体制は整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成準備し、全職員に周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内で避難訓練を実施し、近隣の方にも有事の際には協力をと呼び掛けている。	年2回の消防訓練の他に事業所独自で夜間想定の訓練を行っている。震災時には同敷地内の関連事業所との協力で無事対応でき、ラジオで呼びかけたことにより、地域の方々からの支援を得ることが出来た。これらの経験を基に地域との協力体制の強化に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドが尊重されるように言葉かけに注意している。個人情報の取り扱いにも注意を払い、守秘義務を果たすように注意している。	一人ひとりの人格を尊重した丁寧な対応に気を配っている。声かけや対応が馴れ合いにならないよう、職員同士で確認し合いながら、利用者が穏やかに過ごすことができるよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の意思を表出できるように分かりやすい言葉を使い、説明している。また、着替えや入浴の場面など日常のさりげないことから自己決定しながら暮らせるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は自分のペースがあり、生活のリズムも持っている。利用者本人がどのように過ごしたいかを確認し、決して職員の都合を優先しないように心がけながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者全員女性のため利用者本人が気分によって化粧をし、身体状況が可能なかぎり近所の理美容店の協力を得ながら、おしゃれが楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は力を合わせ協力しながら準備や後片付けをしている。食事中は利用者が自分の話をしやすいように話を振ったり、問いかけたりしている。	季節を感じられる献立作りを心掛けている。ケーキやバケツプリンを手作りし、利用者・職員の誕生日を共に祝い、楽しい時間を過ごしている。和やかな雰囲気の中で、職員とテーブルを囲み、談笑しながらゆっくりと利用者のペースで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや食べる量は職員全員が利用者の体重や運動量や習慣を考慮し支援している。水分量や尿の状態も観察しながら毎日確認し脱水症状を起こさないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを確実に利用者一人ひとりの状態に合わせて行っている。歯ブラシに拒否のある利用者には口腔ケア用のウエットティッシュを使用している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の体調や状態を見ながら、極力おむつ類の使用は控えるようにしている。排泄パターンやその時の様子を観察し適切なトイレ誘導を行っている。	利用者一人ひとりの体調・状況・時間帯・排泄パターンに応じた適切な対応を心掛けている。職員は利用者の下着をそれぞれの排泄能力に合わせ、段階を踏んで選択し自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は看護師を中心に毎日確認している。便秘・軟便などの状態に合わせ医師の指示のもと下剤の調節を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の回数・タイミングは利用者一人ひとりの希望に沿った形で支援している。	利用者の体調や希望に合わせ、臨機応変に対応している。浴室用車椅子を準備して利用者が安全に入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の居室温度管理をはじめ、24時間換気や昼食後の午睡等のニーズも取り入れ安眠・休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋のファイルを作り、理解・確認できるようにしている。薬変更時には特に注意し様子観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	もち・おはぎ・干し柿など四季折々のものを手作りしている。利用者も目を輝かせて作業に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物は毎日交代で利用者と職員で行っている。個別に利用者から希望があれば職員状況によっては外食・買物も個別に対応している。	毎日利用者と共に近隣のスーパーや商店に出かけて、住民の方々と触れ合う機会を多くもっている。利用者から野菜や生鮮食品の鮮度具合や見分け方のアドバイスをもらうこともあり、楽しみながら買い物をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な時に必要な分だけ渡せるような環境作りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自宅同様、電話などは自由に使用でき遠方の家族とのやりとりなどを随時支援している。手紙に関しては送信よりも受信が多い。本人にしっかり伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはカーテンではなく上下の開閉が可能なロールスクリーンを設置し、採光調整を行っている。トイレ・風呂場等にはわかりやすく張り紙をするなどの工夫をしている。	清掃が行き届き整理整頓がなされている。天井までの大きな窓からの自然光で暖かで明るく落ち着いた環境となっている。廊下奥の窓際にはソファーが置かれ、利用者が外を行き交う住民の方々と顔を合わせ、言葉を交わし、自由にくつろげるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつのまにかそれぞれの居場所が確定しており、職員の気配り・目配りで狭い共用空間をさまざまな死角を利用して、独り用や仲間での団らん場所に作りあげている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 （グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 （小規模多機能の場合）宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	ほとんどの居室は本人と家族の好みを活かし、写真・馴染みの品などを持ち込み思い思いの空間になるよう工夫している。	持ち込みの制限はなく、使い慣れた馴染みの物や仏壇が持ち込まれており、安心した生活が出来るよう支援している。居室はフローリング仕様だが、利用者の状態や希望により畳部屋として使用出来る作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	以前よりも全体的なADLがさがり、「できること」「わかること」が減少傾向にあるが、小さなこと（洗濯物畳み・新聞折・野菜切り）から自立につながるものを探せるよう支援している。		